

「日本庭園・相楽園」との 地域連携協力活動 2025 1 相楽園「にわのあかり」／イルミネーション & コンサート

「にわのあかり」への参加

7月26日(土)・27日(日)の2日間、神戸市立相楽園の主催イベント「にわのあかり」が開催されました。

本サービスラーニングによる当イベントへの参加は、昨年に引き続き2回目になります。2日間にわたる地域連携協力活動として「コンサート」「ボカロ・ボー」「にわのピアノ」など多彩な発表を行いました。

今年の夏は昨年にも増して記録的な酷暑。とにかく異常な暑さの2日間でした。体調管理に細心の注意を払いながら、皆で一生懸命取り組みました。

3つのイベント

コンサートは本学卒業生(旧神戸山手短大)で、シンガーソングライターとして活動している「なゆさん」と「Risaさん」が弾き歌いを披露してくれました。また本学社会学部教員の渡辺卓也先生・中島康二先生の「夢のコラボ」も実現しました。

ボカロ・ボーは、本学社会学部教員の岡本久先生による「オリジナル電子楽器」で、棒を振るタイミングにあわせボーカロイドが「歌う」という装置です。子供から大人まで楽しめるもので、何度も挑戦するお子様もいました。

「にわのピアノ」は、いわゆる「駅ピアノ」の電子ピアノ版といえるものですが、演奏すると音の高さや強さにあわせ、周辺に配置されたLEDが様々な色に変化するという「イルミネーション」作品です。演奏に心得のある方々が好きな曲を弾き、周辺の方々にはその演奏とLEDの変化を存分に楽しんでいただくことができました。



コンサート



ボカロ・ボー



にわのピアノ

相楽園は、神戸市の都市公園で唯一の日本庭園で、飛石や石橋を渡り、流れや滝石組など深山幽谷の景を見ることができます。

また蘇鉄園や樹齢約500年と伝えられる大クスノキ、春のツツジの花や秋の紅葉など、1年を通して美しい景観を見ることができます。

いわゆる「前撮り」の場としての人気も高く、毎日何組ものカップルやお子様連れの方々が、正装した洋服や着物姿で撮影されている様子を見ることもできます。

相楽園 にわのあかり

2025年 7月26日(土)・27日(日) 雨天中止

関西国際大学「サービスラーニング」による地域連携協力活動

このフライヤーは「にわのあかり」における関西国際大学の学生・教員によるイベント企画のご案内です。
「にわのあかり」の全体構成については、神戸市立相楽園のホームページをご覧ください。

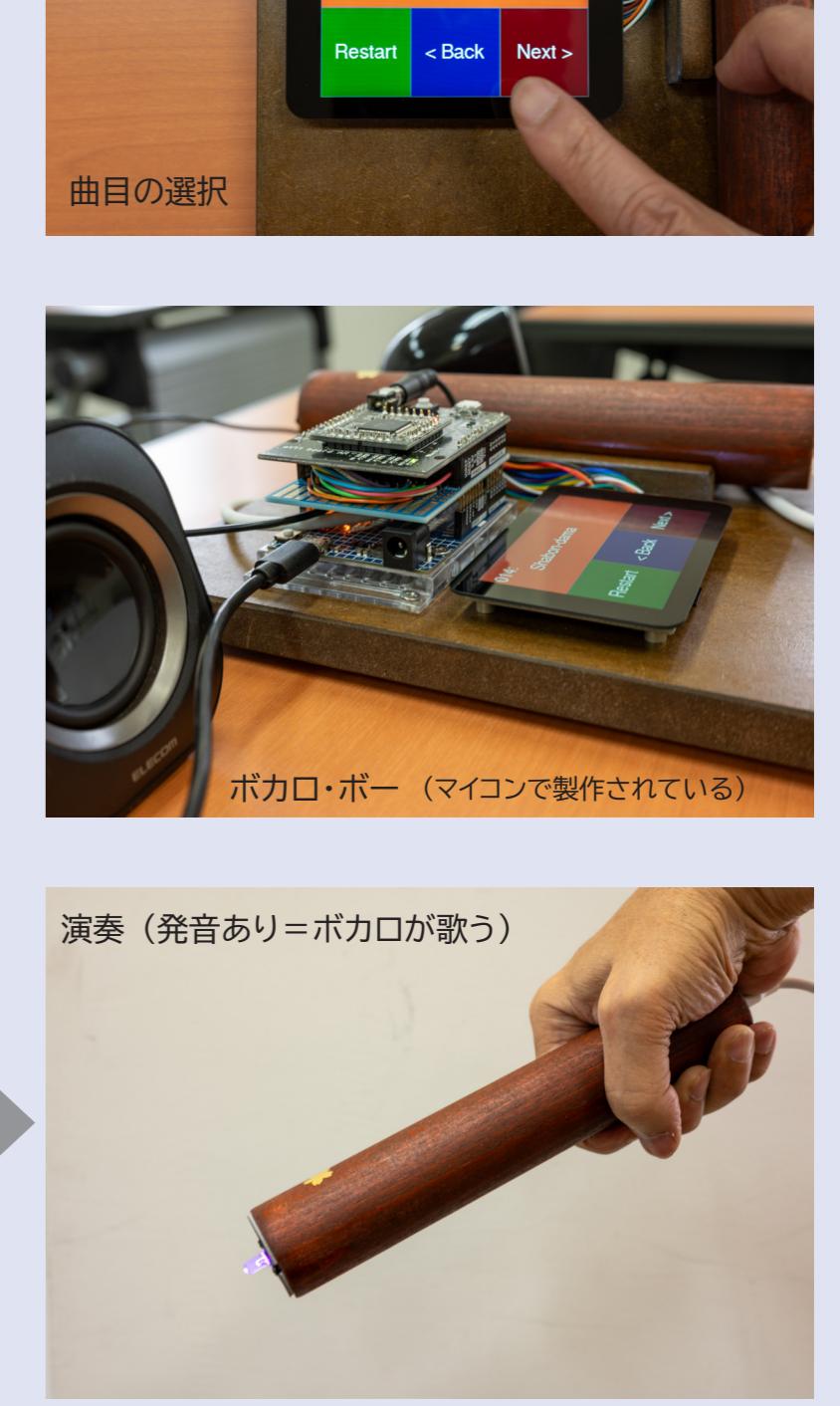
にわのピアノ	どなたでも自由に演奏していただけます ※音楽セミナー用意していますので演奏をお待ちいただけます	26日(土)・27日(日) 日本庭園・池の東側スペース
ライブ・コンサート	ピアノを弾くとその演奏に合わせ、周辺に配置されたイルミネーションの色が様々に変化します。 ※ピアノは電子ピアノ(B8踏)です ※マイクもあります(歌いなどできます)	26日(土) 芝生広場
ボカロ・ボー	ピアノを弾くとその演奏に合わせ、周辺に配置されたイルミネーションの色が様々に変化します。 ※夕暮れごろから、ご利用開始となります。 ※他のエリアでコンサートの実施中はご利用をご遠慮ください。 ※マイクもあります(歌いなどできます)	27日(日) 芝生広場

観覧・参加無料

相楽園入園料の他には
大人(15歳以上) 300円
小人(6歳以下) 100円
60歳以上の高齢者料金
お子様料金
※高齢者料金は自己申告料になります
※神戸市立相楽園は、公共交通機関での移動が困難な方や、身体障害者の方、お年寄りの方等の利用者のため、公共交通機関を乗り換えていただくと無料になります
詳しい情報は相楽園のホームページをご覧ください

関西国際大学
神戸市中央区環状山町3-1
TEL:078-341-6060(代表)
<https://www.kuins.ac.jp>

相楽園地図



準備学習

コンサート、ボカロ・ボー、そして「にわのピアノ」の3つのイベントでは、それぞれ向けに音響システムを組む必要があります。

大学の授業では、ケーブルの巻き方やスタンドの立て方から始まりミキサー操作に至るまで、本番を想定しながら音響システムについて広く学習しました。またイベント記録としての写真や映像の撮り方なども学びました。

そして3つのチームを編成し、2日間に渡るイベントのそれぞれの発表について全員が役割を担えるようシフトを組み、本番に備えました。

ボカロ・ボー



「日本庭園・相楽園」との 地域連携協力活動 2025 1 相楽園「にわのあかり」／イルミネーション & コンサート

ライブ・コンサート

大学のから機材を搬出し相楽園へ移動。2日間にわたり、音響機材のセッティングや、LEDイルミネーションの設置などし、本番準備を進めました。

Nayuさん、Risaさんによるソロ・コンサート、そして渡辺卓也先生・中島康二先生による「夢のコラボ」。

NayuさんとRisaさんは、本学の卒業生（合併前の神戸山手短期大学）です。

Nayuさんはシンガーソングライターで、ピアノ弾き語りによる美しい澄んだ声の持ち主です。この日は岡本先生作曲の Nayu オリジナル曲「ずっと」も披露されました。

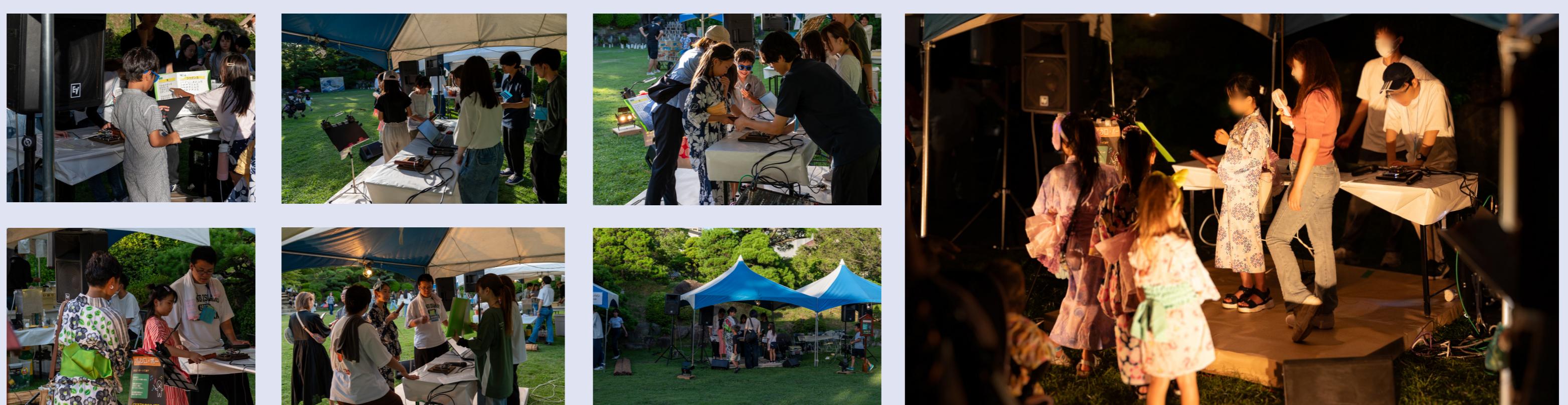
Risaさんもシンガーソングライターで、ギターの弾き語りによる力強い歌声が特徴です。

それぞれオリジナル曲や、会場に来られた様々な年齢層のお客さんにも楽しんでもらえるような多彩な曲を熱唱し、イベントを大いに盛り上げてくれました。



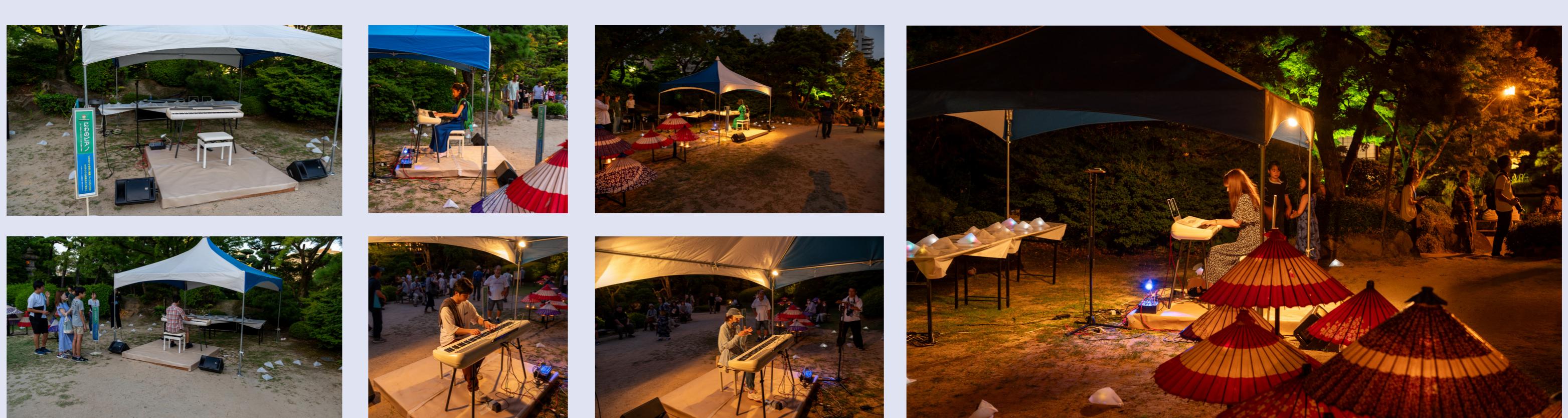
ボカロ・バー

子供から大人まで、多くの方が「演奏」に挑戦してくださいました。スタッフも事前に練習を重ね、上手な演奏の仕方をしっかりと「伝授」することができました。



にわのピアノ

ピアノ演奏の音の高さや強さに従い、約 50 台の LED 装置は赤・オレンジ・黄・緑・青・紫など様々な色に変化しました。またそれらの装置はトレーシングペーパーで覆うことで、やさしく幻想的な光の演出を行うことができました。



スタッフ資料

イベントに際しては、様々な資料の準備が必要です。イベントの全体像、時間予定や役割分担、セトリ（セットリスト）など、イベント進行に必要なすべてのものを用意し、参加者全員で共有します。

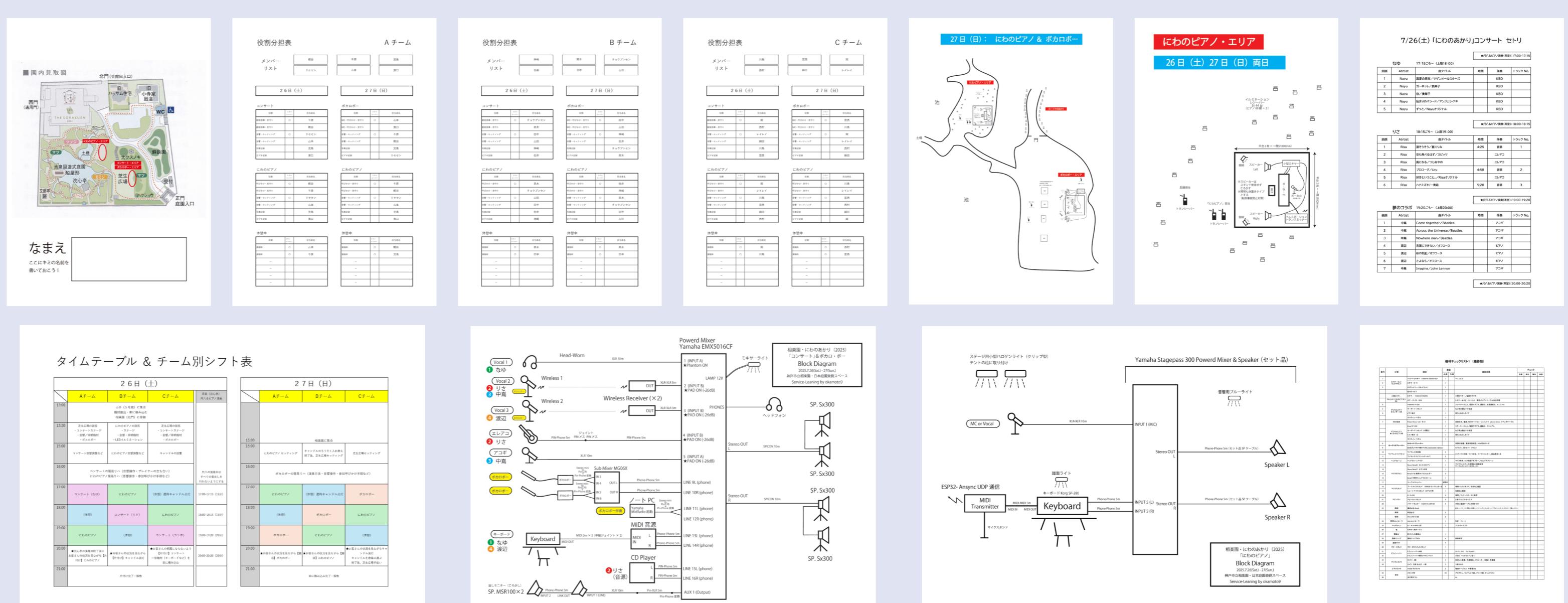
ブロック図（ブロックダイアグラム）は、コンサートを実現するための大切な「設計図」のひとつです。コンサートに必要な機材をすべて洗い出し、機器同士の接続を確認しまとめます。

セッティング図もなくてはならないものです。実施スペースに合わせ、機材や椅子などの配置を検討していきます。

プログラムやブロック図がまとまった段階で、機材チェックリストを作成します。たったひとつのものがないだけで、イベントが行えなくなることもあります。慎重に慎重を重ね作成していきます。

このような図面や資料を用意することではじめて、イベントを円滑に運営することができるようになります。

※ここではスタッフ資料の一部を掲載しています。



ふりかえり（「ふりかえりアンケート」より一部抜粋）

普段参加したことなかったこのようなイベントの裏側では、どうなっているのかを体験できた。

この授業を通して、舞台づくりの裏側を初めて体験することができ、とても貴重な経験になりました。

授業だけは本番にちゃんと動けるのかと不安だったが、思ったよりもちゃんと動くことが出来てよかったです。普段こういった経験をすることは無いので色々な作業や空気感を味わうことが出来て新鮮だった。

協力して準備や計画をするのは大変だけど楽しかった。協力して行うことの大切さが学べた。準備や接客、協力することを通してこの先活かせるものを沢山学べた活動だった。

本番では、イベントのスタッフとしてお客様と関わった経験が良かった。

一つのイベントの1つのコーナーのために、準備すべきことが多いこと。強力してもらう、人を動かすには資料をしっかりと作り、情報を共有を大切にすると円滑にイベントを進めることができると学べた。

本番で計画通りに行動できるか、とても不安なことも多かったが、同じチームの人と協力したり、先生からたくさんのアドバイスをいただき、とてもやりがいがあった。

普段お祭りやイベントは客側として参加するので、こういった現場の裏側というのは知らなくて新鮮でした。

チームで協力することの大切さを学びました。

毎週の授業や本番で、長々とするのではなくテンポよく物事を進行して貢献したことがとても良かったです。打ち合わせの期間があまりなくぶつつけ本番になってしまい、当日どうなってしまうんだという不安は多少ありました、が、臨機応変で柔軟な対応を求めるイベントスタッフという所を体験できたところがとても楽しかったです。

音響について学べることがないので、マイクの音の確認の時は叩かずにしておくことや、アーティストのマイクの距離で音量を調整することなど、知らないことをたくさん学べることが出来た。

仕方のない事だが授業回数が少なかったため、現地に行って上手く設営できるか不安だったが先生がきちんと指示してくれたので不安が解消されて興味開心を持ちながら作業することができた。

“体力的にはしんどかったけど、すごくやりがいを感じた。”

地域の人や小さな子供の笑顔を見るのが楽しかった。”

トランシーバーでの連絡やスケジュール通りに進めなければ苦情がくるなど、イベントを運営する上の注意点を学ぶことができた。

面白いですね

授業は短い期間で自分も休むことがあったので準備不足だなって自分で実感することもありましたが、それでも学科学年関係なく多くの人と同じ目標のために協力出来たことが楽しくてよかったです。リハーサルの時、音響に対して難しいなと思っていた時にも優しく教えて下さり助かりました。本番では多くの人を誘導したり、ボーカロードを教えることになったのですが、説明が難しいなと思うからどうにか楽しめるように言葉を選びました。

裏方の仕事って今まで知らなかっただけ沢山のことをしているんだなと感じた。

あまりスマーズではなかった